

2-3 貯水施設の雨水貯留容量の確保

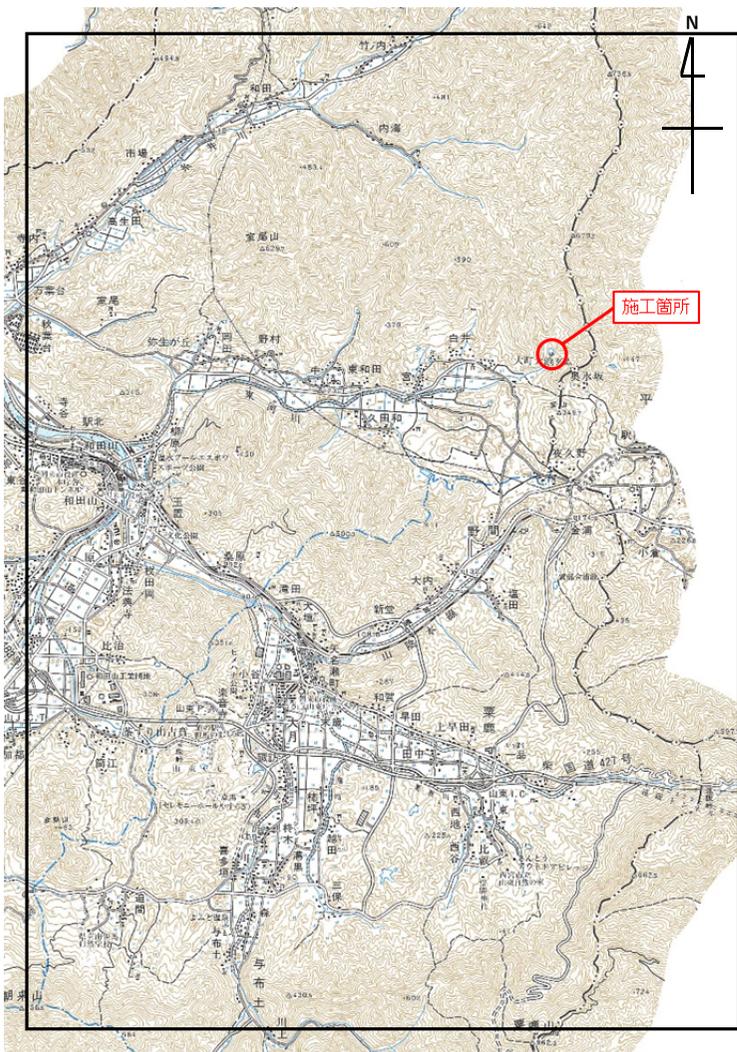


ためる
流域対策

既存ダムの洪水調節機能の強化

事業概要：大町大池

事業概要：朝来市



大町大池の航空写真



ため池観測システムのカメラ監視映像

ため池観測システムを導入し、水位、流量、漏水量、カメラ監視映像を遠隔で随時確認することにより、ため池の日常管理や貯留量の調節能力が向上し、緊急時の対応力も飛躍的に向上した。

2-4 ポンプ施設との調整



河川増水時のポンプ運転調整

操作規則への明示、運用の検討

事業概要：河川増水時のポンプ運転調整について、操作規則へ明示し運用することを検討

実施主体：養父市

下網場ポンプ場

実施主体：朝来市



ポンプ場全景



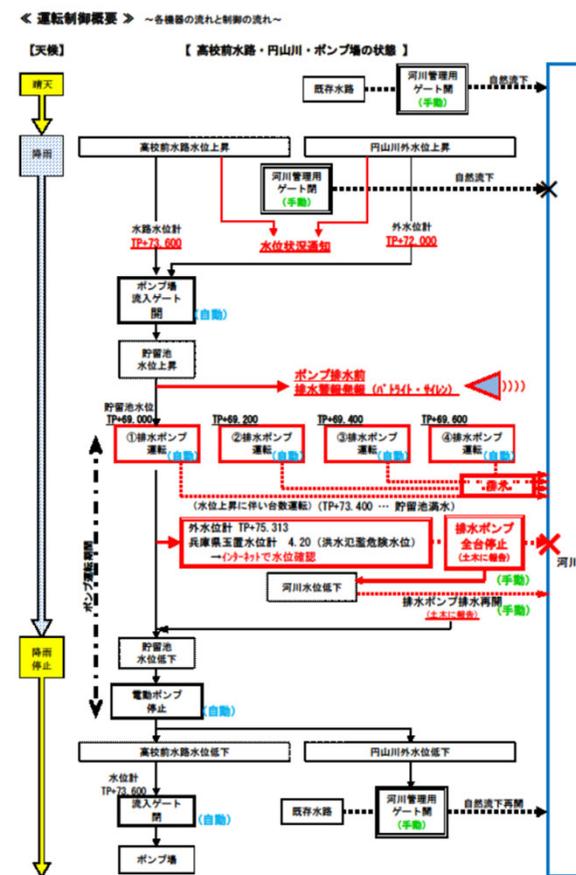
揚水ポンプ



雨水ポンプ



ポンプ室



■2-6 森林の整備および保全



災害に強い森づくり

事業概要：災害緩衝林の造成 等

実施主体：兵庫県



整備前



整備後

- 事業名 令和5年度里山防災林整備
- 目的 倒木や崩壊の危険性の高い集落裏山の里山林を対象に、森林整備等の実施により山地災害防止機能等を高める
- 施工地 養父市建屋地区
- 整備内容
 - ① 森林整備 1. 65ヘクタール
 - ② 簡易防災施設 1基
 - ③ 案内板 1式



事業概要

○浸水が想定される区域の指定・ 県民の情報の把握

水防法の改正に伴う浸水想定区域図の作成
水防法改正に伴う洪水浸水想定区域の指定
兵庫県CGハザードマップによる情報提供
ハザードマップの作成・配布
避難行動指針の作成
まるごとまちごとハザードマップ①
まるごとまちごとハザードマップ②
災害を伝える取組
簡易雨量計の配布
避難判断水位・氾濫危険水位等の見直し

○浸水による被害の発生に係る情報の伝達

雨量・水位情報の発信
雨量計の設置
河川監視カメラ情報の発信
県民に対する防災情報の発信
市町に対する情報提供
屋外拡声子局の設置

○浸水による被害の軽減に関する学習

防災に関する人材の育成
防災マップの作成支援

○浸水による被害の軽減のための体制の整備

避難施設等への案内板等の整備
津波避難ビルの震度感知式鍵ボックスの設置
避難行動要援護者の避難支援者に対する公費によるボランティア保険加入促進
防災組織の結成推進・活性化

○訓練の実施

自主防災組織への啓発
市民総参加訓練の実施
総合防災訓練の実施
台風23号メモリアル水防訓練の実施
一斉避難訓練の実施
自主防災組織における訓練の実施

○建物等の耐水化

建物等の耐水化
指定耐水施設の指定

○浸水による被害からの早期生活再建

共済制度の加入促進
応援体制の確立



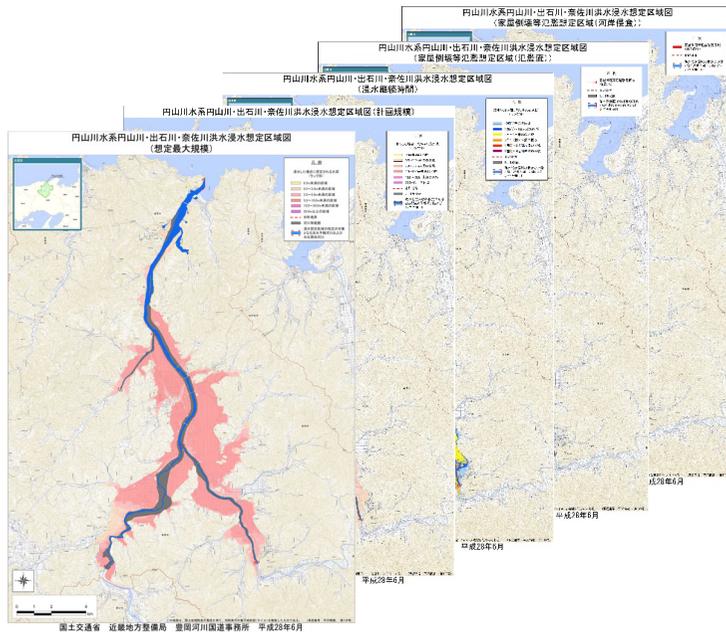
水防法の改正に伴う洪水浸水想定区域図の作成

実施主体：国

■洪水浸水想定区域図の公表（平成28年6月）

平成27年の水防法改正を踏まえ、円山川において想定される最大規模の降雨により浸水が想定される範囲や浸水深を示した「洪水浸水想定区域図」、家屋倒壊等をもたらすような氾濫の発生が想定される範囲を示した「家屋倒壊等氾濫想定区域」を平成28年6月に公表。

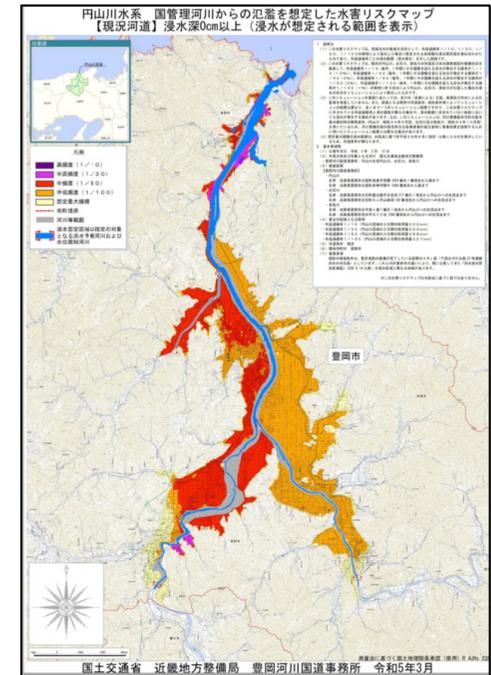
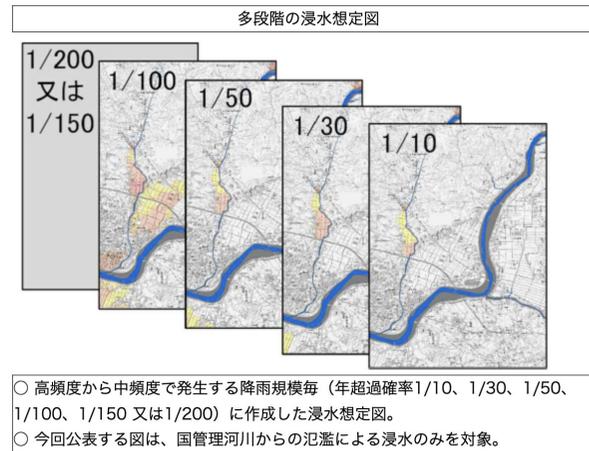
市町村において、地域防災計画やハザードマップの見直し、避難情報の適切な発令等、住民等の迅速かつ円滑な避難に資する水害リスク情報として活用。



■水害リスクマップの公表（令和5年3月）

土地利用や住まい方の工夫、水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討及び企業の立地選択など流域治水の取り組みを推進するため、比較的発生頻度が高い降雨規模も含めた複数の降雨規模毎に作成した浸水想定図「多段階の浸水想定図」と、それらを重ね合わせて浸水範囲と浸水頻度の関係を図示した「水害リスクマップ」を令和5年3月に公表。

直轄河川以外の河川氾濫や下水道等の内水氾濫も考慮した内外水リスクマップについても、今後作成・公表していく予定。





ハザードマップの作成・配布

実施主体：豊岡市

事業概要：1/100の規模の降雨時に堤防が決壊した場合の家屋倒壊危険区域や想定浸水深、土砂災害警戒区域、指定緊急避難場所の位置などの防災情報を記載したマップの作成・配布

2022年5月に防災マップを更新（2016年以来）し、市民に配布。

○2022年1月にWEB版防災マップの公開。<https://arcg.is/n844m>

行政区毎の防災マップに加え、想定最大規模降雨（千年に一度の大雨）による災害想定や高潮、津波浸水想定区域も掲載。

地図の拡大・縮小、住所検索、災害想定を表示・非表示や距離の計測などが可能。

○2022年5月に市民へ印刷物による防災マップを配布。

行政区別に概ね1/5000以下の縮尺の航空写真の上に、計画規模降雨（1/100）を示したもの。

防災マップ裏面には、マップに着色されたエリアでの避難の考え方や、避難情報が発令された際の住民がとるべき行動を記載。



避難行動指針の作成

事業概要：想定される浸水深等に応じて市民の避難行動（水平避難、垂直避難）を示したものを防災マップの裏面に掲載

実施主体：豊岡市

警戒レベルと避難情報と住民がとるべき行動

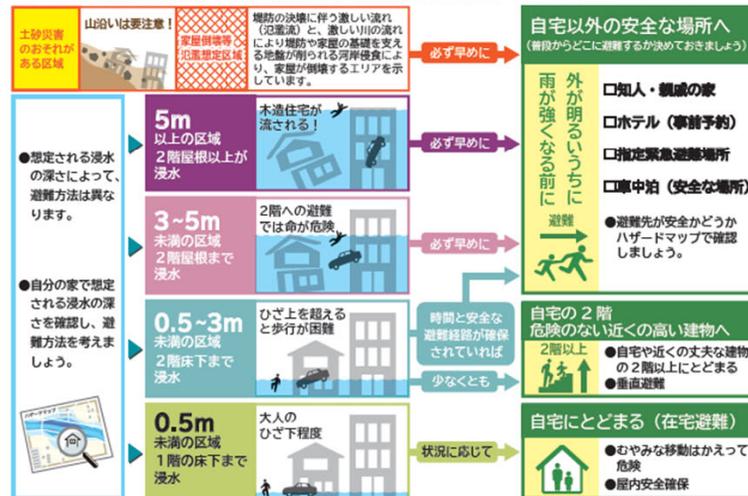
市では避難情報をさまざまな手段でみなさんに伝達します。危険な場所にいる方は「警戒レベル3」や「警戒レベル4」で、地域のみなさんと声をかけあって、安全・確実に避難しましょう。

警戒レベル	行動を促す情報	状況	住民がとるべき行動
5	緊急安全確保 (豊岡市が発令)	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！
<警戒レベル4までに必ず避難！>			
4	避難指示 (豊岡市が発令)	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難
3	高齢者等避難 (豊岡市が発令)	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難
2	大雨・洪水注意報 (気象庁が発令)	気象状況悪化	自らの避難行動を確認
1	早期注意情報 (気象庁が発令)	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める

各種の情報は、警戒レベル1～4の順番で発表される限りではありません。
※状況が急変すれば、市の指定緊急避難場所が開設されていない場合でも緊急時には避難情報を発令します。
※逃げ遅れによる被災が多くなっています。危険を感じたら、これらの発表を待たずに自主避難をしてください。

避難の考え方

【避難】とは「避」を「避」けることです。すなわち、災害リスクから命を守る行動です。市の指定緊急避難場所（以下、避難場所）に行くことだけが避難ではありません。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念されるなか、避難場所が過密状態になることを防ぐため、自宅などの安全確保が可能な方は感染リスクを負ってまで避難場所に行く必要はありません。安全な自宅、親戚や友人の家に分散して避難することをこれまで以上に積極的に検討してください。ただし、「在宅避難」や「分散避難」が困難な方は迷わず避難場所へ避難してください。



防災マップに掲載されている災害想定等

【浸水想定】

1年間に発生する確率が1/100程度（河川により1/100~1/30）の降雨（計画規模降雨）により、仮に堤防が決壊（破壊）した場合や川の水位が堤防などを乗り越えてあふれ出した場合（越水・溢水）、浸水域の広がりや浸水深の変化を示すものです。想定した流域平均降雨量は次のとおりです。

- ・丹山川水系 327mm/48時間（1/100年確率規模）
- ・竹野川水系 215mm/24時間（1/50年確率規模）
- ・須井川水系 158mm/12時間（1/30年確率規模）



シミュレーションでは、内水氾濫（川や海などへ排水できない水が溜まる現象）を想定していません。また、想定される降雨を超えた大雨となった場合には、氾濫する水の量が増えることにより、浸水域が広く・浸水深が大きくなる可能性があります。

【想定最大規模確率降雨による災害想定】

想定最大規模降雨（1年間に発生する確率が1/1,000程度）による浸水想定は、この防災マップには記載がありません。また、堤防が決壊等により、家屋が倒壊する区域（家屋倒壊等氾濫想定区域）は、想定最大規模降雨による想定しかされていません。被害が想定される区域は、WEB版防災マップで確認してください。



【WEB版防災マップ】
<https://arcg.is/n844m>

【土砂災害】

土砂災害が発生する雨の程度は設定されていません。市からの避難情報を持つのではなく、危険を感じたら避難を開始することを心掛けてください。

○自主避難の目安雨量

- 1 連続雨量が100mmを超え、かつ時間雨量が30mmを超えたとき。
- 2 連続雨量が150mmを超え、かつ時間雨量が20mmを超えたとき。
- 3 連続雨量が200mmを超え、かつ時間雨量が10mmを超えたとき。



【土砂災害（特別）警戒区域】

兵庫県では、土砂災害の危険性がある箇所について、土砂災害防止法に基づき調査を実施し、「土砂災害警戒区域」と「土砂災害特別警戒区域」を指定しています。

土砂災害警戒区域 (通称イエローゾーン)	土砂災害特別警戒区域 (通称レッドゾーン)
土砂災害が発生した場合、住民等の生命・身体に危害が生じる恐れがある区域。傾斜地の地形、地質、土地利用状況など一定の要件を満たした区域に指定されます。	「土砂災害警戒区域（イエローゾーン）」のうち、木造の建物等に損傷が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生じる恐れがあると認められる区域。イエローゾーンよりも崩れやすい区域ではあっても、土砂災害警戒区域に指定されません。

土砂災害警戒区域は人数が一定数あるなどの一定の土地利用に基づいて基礎調査がされています。土砂災害警戒区域に含まれていなくても、土砂災害が発生する恐れがあります。

【行政区界】

行政区界は、公的なものではなく、区の大まかなエリアを示したものです。

避難行動の確認

自然災害に対しては、自らの判断で避難行動とすることが原則です。防災マップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認し、自宅や学校、職場などのような危険があるのか、避難場所はどこなのか等について、あらかじめ確認・認識しておき、いざという時の避難行動について考えておきましょう。

避難行動判定フロー「あなたが取るべき避難行動は？」

- 1 防災マップで自分の家がどこにあるか確認し、印をつけましょう。**
はい
いいえ
色が付されていない場合も、想定を超える降雨による浸水や土砂災害、内水氾濫が発生する可能性があります。隣り比べて低い土地やがけのそばなどにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。
- 2 家がある場所に色が塗られていますか？**
はい ※家屋倒壊等氾濫想定区域はWEB版防災マップで確認しましょう。
いいえ
防災マップでは災害の危険性に応じ「土砂災害のおそれがある区域」「家屋倒壊等氾濫想定区域」「浸水のおそれがある区域」などに分けて左の図のように避難行動を推奨しています。
【避難が遅れた場合】
屋外移動をあきらめて自宅の2階以上のがけから離れた部屋で命を守る行動を！
●取るべき避難行動
- 3 ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？**
はい
いいえ
安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？
安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？
【防災行政無線について】
市から防災情報を放送します。
※停電や移動に備え、乾電池を入れておき、年に1回電池交換を行うようお願いいたします。
- 4 避難する家、連絡先は？**
避難する避難場所は？
避難する家、連絡先は？
避難する避難場所は？

警戒レベル3	警戒レベル3	警戒レベル4	警戒レベル4	お問合せ先
が出たら安全な親戚や知人宅に避難しましょう。（自頃から相談しておきましょう）	が出たら市が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう。	が出たら安全な親戚や知人宅に避難しましょう。（自頃から相談しておきましょう）	が出たら市が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう。	豊岡市役所 防災課 〒668-8666 豊岡市中央町2番4号 電話：0796-23-1111 FAX：0796-24-5932 Mail：bousai@city.toyooka.lg.jp

3-1 浸水が想定される区域の指定・県民の情報の把握

ハザードマップの作成・配布

実施主体：香美町

事業概要：浸水想定区域図をもとに避難所の位置などの防災情報を記載したマップの作成・配布

実施主体：朝来市

令和3年3月に改訂したハザードマップを全戸配布し、以降は転入者へ配布している。

実施主体：養父市

概要：香美町ハザードマップ 令和3年3月発行
香美町ハザードマップ（令和4年度追加版）
令和5年9月発行

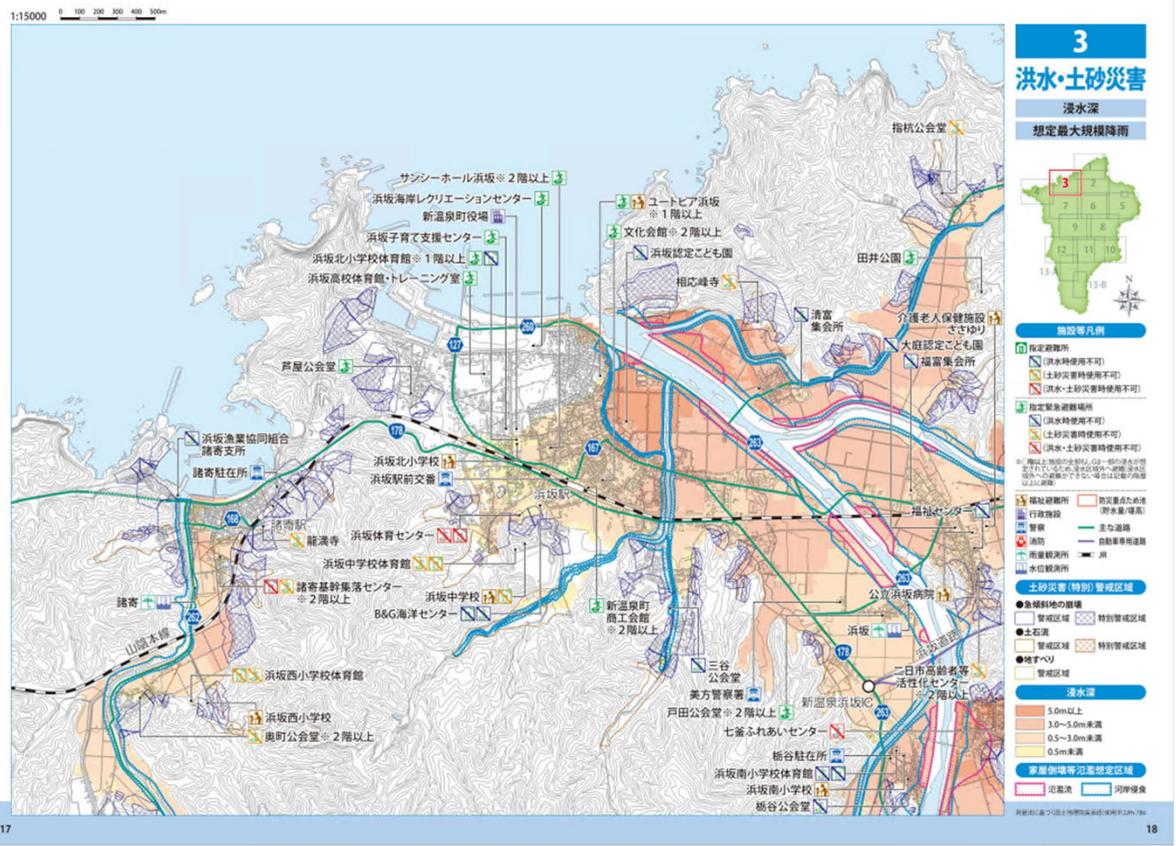
養父市ハザードマップ



ハザードマップの作成・配布

実施主体：新温泉町

事業概要：浸水想定区域図をもとに避難所の位置などの防災情報を記載したマップの作成・配布



新温泉町 総合防災マップ 保存版

近年、全国各地で大規模な自然災害が発生しています。いざというときに備えて、日頃から家族や地域で防災について話し合っておきましょう。

わが家の防災メモ

わが家の避難先(親類宅・避難所など)	家族が離ればなれになったときの集合場所
--------------------	---------------------

家族の名前	血液型	会社・学校の電話番号	携帯電話番号

目次	防災	災害に備えて	ページ
風水害	風水害	災害に備えて	P.1~2
	洪水	洪水	P.3~46
	洪水	洪水・土砂災害ハザードマップ(浸水深)	P.11~38
津波	津波	洪水ハザードマップ(浸水継続時間)	P.39~40
	津波	高潮ハザードマップ	P.41~46
避難施設	津波	津波	P.47~54
	津波	津波ハザードマップ	P.49~54
避難施設	避難施設	避難施設一覧	P.55~58

発行 新温泉町 〒669-6792 兵庫県美都郡新温泉町浜坂2673-1 電話:0796-82-3111(代表) 【令和3年3月作成】

令和3年3月に町内全戸「新温泉町総合防災マップ」を配布。防災マップには浸水エリアや避難場所の位置はもちろんのこと、非常持出品の一覧や避難時の注意点など、住民が自ら準備・行動できるような災害時に役立つ情報も掲載。